

北東アジアの平和と安全保障に関するパネル（PSNA）第3回会合概要

「国際安全保障促進のための核大国の責任と役割」

2018年5月31日～6月1日

モスクワ（ロシア）

主催：長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）

共催：バグウォッシュ会議

協力：ロシア科学アカデミー幹部会下ロシアバグウォッシュ会議、世界経済国際関係ブリマコフ国立研究所（IMEMO RAS）協力

会議には、パネルメンバー11名（米国、中国、韓国、日本、モンゴル、オーストラリア）にくわえ、地元ロシアの専門家と北朝鮮大使館からの参加者2名等、総勢56名の参加を得ることができた。会議プログラムは北東アジアの平和と安全保障に加え、核兵器国の核戦略見直しの必要性やミサイル防衛問題、核不拡散条約（NPT）と核兵器禁止条約、原子力安全性と核セキュリティ問題と、幅広く議論を行った。今回は、特に板門店宣言、米朝会談の可能性といった大きな情勢変化があったこと、さらに北朝鮮大使館より、参事官と一等書記官の2名が初めて参加したことで、北東アジアの非核化と平和構築への期待が高まった内容となった。

特に、北東アジア問題については、板門店宣言の評価として、北朝鮮の非核化ではなく、朝鮮半島の非核化と朝鮮戦争の終結を明確にしたこと、そして軍事対立を防ぐための信頼醸成措置の重要性が指摘された。ここから、さらには北東アジア全体の非核地帯化と北東アジア全体の安全保障の枠組み構築の重要性が強調された。今後はこの機会をとらえて、非核化のプロセスと安全保障の枠組み整備にむけて、堅実な議論を続けていかねばならない点が強調された。

こういった指摘も受け、PSNAとしては、あらたに「非核化の検証」と「地域安全保障とグローバルな核軍縮・不拡散体制」の2つのワーキング・グループを立ち上げることで合意した。

今回の会合を受けて、PSNA 共同議長による声明・提言が公表された。主な提言としては；1）今回の対話を生かして、法的拘束力をもった北東アジア全体の非核兵器地帯化をめざすべき。2）地域全体で安全保障対話を進める枠組みを構築すべき。3）2020年再検討会議に向けて、核兵器禁止条約をめぐる対立を防ぐため、関係諸国は安全保障政策における核兵器の役割を減少させる施策を検討すべき。4）政府による外交の信頼性が問題視されている状況で、市民社会や専門家が政府の動きを監視し、よい方向に導く努力を強化すべき。5）特に日本は地域の重要な一国として、信頼醸成や北東アジア非核兵器地帯の設立にむけて積極的な貢献をはたすべき、である。

http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/3rd_PSNA_Statement_J_20180601.pdf